

三芳町
10の魅力
...
まちづくり
Community Building

「良い町は良い政策から」をモットーに、住民の皆さまの積極的な参画による対話と連携を重ねながら各施策を推進。魅力にあふれ喜びいっぱい 幸せになれるまちづくりに取り組んでいます。

With our motto of "Good towns are formed by good policies," we promote each policy through repeated dialogue and collaboration involving the active participation of residents. We are striving to build a community filled with charm and joy, where people can be happy.



未来につなぐ
ひとまちみどり 誇れるまち

行政連絡区(行政区)への参加

行政区や自治会は、安心して暮らせる住みよい豊かなまちづくりのために欠かせないコミュニティ組織です。

町には、現在14の行政連絡区があり、その中に自治会、組、班、ブロックなどの自治組織があります。行政区は、町と地域住民を繋ぐ役割を担っており、地域に住む人々の身近な地域課題を解決する取り組みを行い、より住みやすいまちづくりを目指して活動しています。具体的には通学路の見守りや防犯パトロール、災害に備えた避難訓練や防災訓練、高齢者の見守り活動、環境美化活動、地域の夏祭りや体育祭・みよしまつりなど多岐に渡ります。災害につよく、犯罪のおこしにくい地域コミュニティの一員として、ぜひ、行政区・自治会に加入しましょう。行政区への加入方法はQRコードをご確認ください。



行政区、自治会等



サステイナブルなまちづくり

感染症対策、人口減少、SDGs、インフラの老朽化など、様々な社会情勢に応じた対応が必要となります。こうした中で、社会、環境、経済、財政面において、持続可能なまちづくりを進めていくことが重要です。

町では財政サステイナビリティ宣言を行い、将来を見据えた財政運営に取り組んでいます。そして、共生社会の実現、緑の保全、GIGAスクール構想の推進、公共施設マネジメントの遂行、企業誘致・留置など、一人ひとりの命と尊厳、生活を守り、美しい環境保全や未来の人材育成、財政基盤の強化に至るまで、多種多様な施策を展開し、誰もが暮らしやすく、誇れる町を未来に継承します。



持続可能な町政運営を推進していきます!

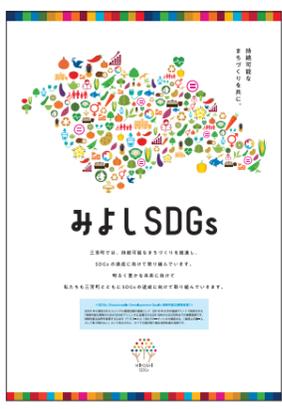
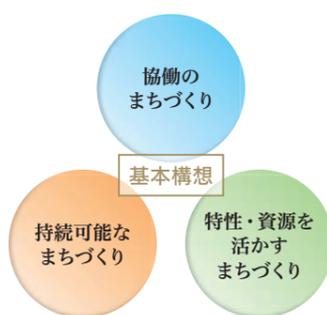
みよしSDGs

「誰一人取り残さない」という理念のもと、貧困や不平等・格差、気候変動などの問題を解決し、よりよい世界を目指すため、国連は2030年までの持続可能な17項目の開発目標(SDGs)を定めました。町は第5次総合計画後期基本計画(2020年度〜2023年度)においてSDGsと各施策分野を関連づけ、持続可能なまちづくりの推進に取り組んでいます。また、日本農業遺産の「武蔵野の落ち葉堆肥

【まちづくりの基本理念】

- 1 協働のまちづくり
第4次総合振興計画で掲げた「協働のまちづくり」の理念は第5次総合計画でも引き継ぎ、さらなる深化を図ります。財政制約を背景に公助の拡大が難しくなるなか、住民ニーズの多様化・高度化に即応する自助・共助の拡大を図ります。
- 2 持続可能なまちづくり
限りある資源と地球環境を守りながら、財政制約や人口減少など社会情勢に対応した町の発展を目指します。社会・経済・財政面を含めて持続可能なまちづくりによって、三芳町のもつ良好な環境を確実に将来世代に継承することを重視していきます。
- 3 特性・資源を活かすまちづくり
「東京に一番近い町」「昼夜間人口比率が県内トップ」「平地林が支える三富新田の循環型農業」「自然災害が少ない町」など、三芳町の特性や資源を活かし、小さいながらもきらりと輝く独自の個性的なまちづくりを目指します。

【町の将来像】



農法は三芳町特有のSDGsの取り組みとして注目されているところです。町ではSDGsに取り組み個人や団体を募集する宣言制度を設け、一つひとつの取り組みをつなぎ、地域全体で実現する機運を醸成しています。※SDGs(エス・ディー・ジーズ)・国連で採択された国際目標「Sustainable Development Goals/持続可能な開発目標」



みよしSDGs宣言制度

まちづくり懇話会

多くの住民の声を町の政策形成に反映させるため、毎年開催しています。まちづくり懇話会では、まちづくりに関する取り組み状況や地域の個別テーマ、住民の皆さまからのご意見やご提案について、町長を交え住民の皆さまと意見交換・情報交換を行っています。



みよし machi JAM

「JAM」とは、「ジャムセッション」の略語で、つろいだ気分で行う即興演奏またはその集まりのこと。みよし machi JAMでは、「気心知れた仲間たちと、本音に近い話をのんびり気楽に語り合う場所」をコンセプトに町長を交え、気心知れた少人数メンバーと三芳町の未来をテーマに意見交換を行っています。



協働のまちづくりネットワーク

住民と町が対等の立場で協働してまちづくりを推進するために、平成20年9月に設立されました。現在は様々な分野で魅力ある安心な三芳町をつくるための活動を行っています。

協働のまちづくりネットワーク
埼玉県三芳町



アフターコロナの未来のまちづくり

「コロナ後の自治体は、東京に近く、自然と農業と食のある町の時代」
コロナ禍では、新しい生活様式に合わせ、様々な価値が見直されています。移動が制限される中では、都市近郊への移住やマイクロツーリズムを求める需要も高まっています。こうした中、三芳町は雑誌「アエラ」等のメディアから高いポテンシャルを評価いただいているところです。
アフターコロナの時代において、新しい価値のもとに町の資源や特性を魅力として高め、地域の活気を創出していきます。そして、様々な価値観を共有し、継承する誇りとともに、明るい未来を創ります。



I♥MIYOSHI
三芳おなかま子ども食堂
代表
飯塚 結花さん

私は子ども食堂や、居場所づくりを行っています。何かしらの困難を抱えたご家庭だけでなく、どなたでも参加でき、地域ぐるみで子育てや見守り支えあいができる、もっとインクルーシブ(包摂的)な活動です。大きなことをしなくても、挨拶や声掛け、ボランティアやお手伝いなどできることから繋がりあうことで、誰一人取り残さない、やさしい地域になることを願っています。